

防災施設を中心とした インフラツーリズムの推進

益子 勝成

茨城県 土木部 河川課 水防災・砂防対策室 (〒310-8555茨城県水戸市笠原町978番6)

茨城県ではダムや砂防といった防災施設の役割について地域住民への理解促進を図るため、施設に関連する様々なコンテンツを整備し、加えて防災施設そのものを観光資源として活用することで、地域活性化を図った。具体的なコンテンツの整備については地元との連携を重視しながら、砂防ダムカレーの開発やダム貯蔵酒の取組、スラックライン等のアクティビティの開発を行い、さらにこれらコンテンツを用いたモデルツアーを旅行業者や地元市町村にPRし、ツアーとして確立することでインフラツーリズムを推進した。本稿ではその結果について報告する。

キーワード インフラツーリズム、ダム、砂防、地域活性化、地元愛

1. はじめに

インフラツーリズムは、普段立ち入れないダムや砂防施設といった、大規模な土木施設の見学を通じ、インフラへの理解を深めていただくとともに、観光資源としても活用することで、地域活性化を図るものであり、本県では2020年度より事業を進めているところである。

黒部ダムのように年間数万人を数えるようなインフラコンテンツや、大規模な砂防えん堤やダムがあるわけではない本県において、インフラツーリズムの魅力を向上させるには、単に施設を見学するだけでなく、地域の特徴を生かし各々のインフラに関係するコンテンツをブラッシュアップしていくことが重要である。

本稿では、この点に焦点を当てた、本県ならではのインフラツーリズムの取組みについて述べるものである。

2. 大栗沢砂防ダムカレーの商品化

本県では、砂防えん堤に関連するコンテンツを新たに構築するため、子供にも興味を持ってもらえるよう、どこか愛くるしい見た目の部分透過型の大栗沢砂防えん堤を対象に、近隣の温泉施設の協力を得た上で、砂防ダムカレーを商品化した。

これまでのダムカレーとの差別化を図り魅力的なものとするため、砂防えん堤の効果をわかりやすく具現化したものとする。さらに話題性とストーリー性を持たせたものとし、特にカレー本体については、ライスで見立てたえん堤本体を盛った皿と、通常のカレーより流動性を高めたルーと、”土石及び流木”に見立てた肉やア

スパラ等の具材の入ったグレービーボートを別々の容器として用意し、食べる時に自らこのルーと食材を流し込むことで、土石流（具材）を捕捉し、水（ルー）のみ安全に流れる様子により、視覚的にも楽しめるものとした。



写真-1 砂防ダムカレー

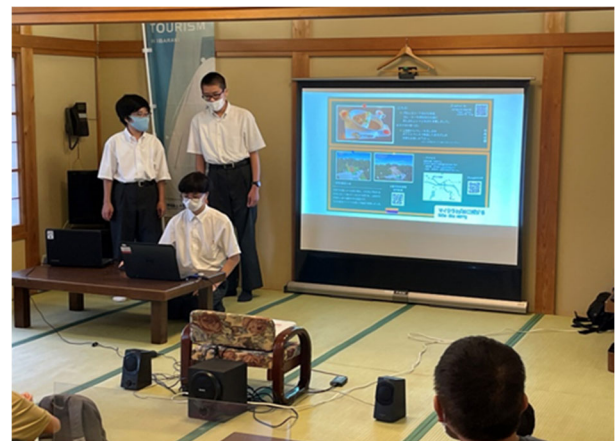


写真-2 高校生によるランチョンマットの説明

さらに、砂防えん堤が地域を守る施設であり、地域と密接に関わっていることを理解していただくため、大栗沢砂防えん堤のある常陸大宮市産の”材料”に徹底的にこだわることとした。例えば、具材である野菜等は同市産であることはもちろんのこと、カレールーが円滑に流れるよう、新たに地元の焼物である御前山焼によって約10°の勾配を設けた特製砂防ダムカレー陶器皿も製作した。

これに加え、砂防ダムカレー用のランチョンマットについても、地元常陸大宮高校eスポーツ部にデザイン・製作を依頼した。ランチョンマットにはコンピュータゲームのマイクラフトで造られた「大栗沢砂防えん堤」が土石流を捕捉する動画もQRコードで掲載されており、食事中にスマートフォン等から閲覧することで、砂防えん堤の役割が、この砂防ダムカレーを通じ理解し易くするなどの工夫を行った。

3. 砂防ダムカレーオープニングイベントについて

2021年7月30日（金）～8月1日（日）の3日間、この大栗沢砂防ダムカレーの発売に合わせ、「砂防ダムカレーオープニングイベント」と称したインフラツアーを実施した。

SAND DEFENSE DAM CURRY

砂防ダムカレー発売記念イベント!
茨城県のインフラを学ぼう!

茨城県の山間部において土石流を防止するために設置されている砂防ダム。その砂防ダムを代表して、常陸大宮市伊勢畑にある大栗沢砂防えん堤や、水戸市など県央8市町村へ農業用水を供給する御前山ダムの見学を通じ、インフラの役割について親子で学ぼう。

御前山ダム
御前山ダム 砂防ダムカレー

夏休みの自由研究課題にもピッタリ!!
御前山の歴史についても学べるよ!

ツアー特典!

- 2枚のダムカード付き!
・御前山ダムカード
・大栗沢砂防えん堤カード
- 昼食は発売開始の砂防ダムカレー!
- 参加者にオリジナル特産品「柚子サイダー」日本プレゼント
ごせんやま温泉四季彩遊覧車
- ランチョンマット 絶賛製作中!

砂防ダムカレー発売記念イベント!

出発日	2021年7月30日・31日・8月1日 (各日2回/年産/半産)
旅行代金	おひとり様 1,000円(大人・小人共通) ※モニターツアーの場合、アンケートにご記入ください。
募集期間	2021年7月10日 10:00～
募集人員	1回10名程度 ※募集枠が満了(先着順)となります。 茨城交通 Web サイトよりお申し込みください。
集合場所	ごせんやま温泉四季彩遊覧車場 (茨城県常陸大宮市伊勢畑 407-2)
日数	1日
最少参加人数	2名様
募集回数	毎週1回
送迎	有 (バスガイド/乗務員/運転員/有)
利用交通機関	マイクrobas
持ち物	飲み物、タオル、筆記用具 など
服装	季節や暑い日、冷たい日もよい服装

ツアーのご予約はWebにて!

茨城交通旅行部

図-1 イベント募集チラシ



写真-3 大栗沢砂防堰堤での事業説明

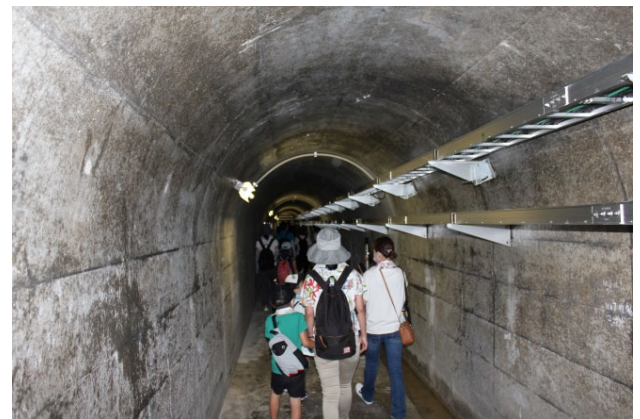


写真-4 御前山ダム監査廊見学

内容は、砂防えん堤の理解促進とともにダムとの違いについても理解できるように、大栗沢砂防えん堤の見学及び砂防ダムカレーの食事とともに、農林水産省の協力を得て近隣にある農業用ダムである御前山ダムの施設見学も組み込んだ。応募にあたっては、実施時期が夏休みということもあり、メインターゲットを親子とし、夏休みの自由研究としても活用できるように案内チラシを事前に小学校に配付するとともに、SNSやメールマガジン等でも広報した結果、計6回のツアー（延べ約80人）は、旅行会社の予約システムを通じ募集を開始したところ、1時間後にはほぼ満席となり、翌日にはキャンセル待ちが発生するほどの人気を博する結果となった。

ツアー後に実施したアンケート結果においても、「えん堤の効果を理解できたか?」、「砂防カレーのおいしさは?」について9割以上の方から、5段階のうち最も良い評価を得ることができ、また、「インフラの役割が大変よく理解できた」「ぜひ今後も継続的に実施して欲しい」といった自由意見も多く頂いたところである。

4. ダムに関するモニターツアーの開催について

本県では噴水や大吊橋などの魅力的施設を有する県管理の7ダムは高速道路ICからも近く、首都圏から比較的



写真-5 石岡第一発電所の見学



写真-6 霞ヶ浦導水施設の見学

短時間でアクセスできるなど立地条件に恵まれていることから、日帰りツアーなど手軽に設定できるインフラツアーをターゲットとした。

ツアーは県北の2つのダムを巡りながら、現存する最古の鉄筋コンクリート構造物の一つであり、国の重要文化財でもある石岡第一発電所を訪れる県北地区のモニターツアーと、県内ダムと霞ヶ浦導水施設等を見学する県央地区のモニターツアーを設定し、旅行会社を介して一般向けに開催した。

これらのツアーは単に現場の施設説明や見学だけではなく、図-2に示す地酒によるダム貯蔵酒の試飲や、バス移動の際に渓谷の紅葉を楽しめるようルートを設定するなど、地元地域の魅力をツアーに組み込んだ。各ツアー後のアンケート結果においても、「ツアー全体の満足度」、について9割以上の方から、「満足」、「やや満足」の評価をいただいた。また、「貯蔵酒の変化の度合いを数値で示せるとよい」

「大人の社会科見学もっとやってほしい」といった自由意見も多く頂いたところである。

また、ツアーではダム貯蔵酒を参加者に試飲していただいたが、単なる貯蔵酒として味わうだけでなく、貯蔵酒に愛着を持ってもらえるよう、新たな取り組みを行った。それは、ダムの流域内で採れた地元産のブドウを地

茨城の「ダム力」を投稿しよう!

茨城県川原町のアカウントをフォロー→共通ハッシュタグ (#ダムらき) と各コンテンツのハッシュタグ (#砂防ダムカレー #ダムフォトフレーム など) をつけて、Instagram・Twitterで投稿してね!

#ダムフォトフレーム
#小山ダム
#土玉ダム
#黒田ダム
#マーライオン

#砂防ダムカレー
砂防ダムカレー販売開始!
大塚市の砂防ダムが今年「国の名材とカレー」を注ぐことで砂防ダムの機能を堪能できます!
【販売】
茨城県大塚市東町センター 2024年秋
茨城県大塚市東町センター 2024年秋
※販売終了後、10月31日まで

#ダム缶バッジ
茨城県が管理するダムもモチーフにした缶バッジを数量限定で作成!
入手方法は毎日WEB上で公開予定です!

#ダム貯蔵酒
#日本の美味しい日本酒あり口
ダム周辺に採れたパルプ室や貯蔵庫の空気を閉鎖して12度ほど、その環境を利用して、茨城県産のブドウを醸造しました!
今後イベント等で試飲予定です。

#ダムカードホルダー
茨城県が管理する7ダムのダムカードをCOOLし収納!
入会券は各自WEBで公開予定です!

#ダムハイライン 検閲中
埼玉県からダム以上に200m級のラインを結んで埼玉の地でダイアリーにパフォーマンス!

茨城インフラツーリズム始動!
茨城県では、観光を通じた地域振興に資するダム、砂防堰堤、トンネルなどのインフラ(公共施設)を地域固有の財産と位置付けて、これらを活用することで、防災啓発とともに地域活性化を図ります。普段なかなか入る機会ある機会のないインフラ施設を体験していただく「平日限定」楽しみながら、インフラの社会的役割を学ぶツアーも開催予定です。

PR動画 YouTube
#マイコンラフト #ダムラ城
茨城県立大宮高校や茨城大学の学生がPR動画を制作!
動画はこちら

インフラツーリズム魅力増進プロジェクト
茨城県土木部河川課
https://www.pref.itaska.lg.jp/itaska/kenen/thoma/kaasetaip.html
TEL: 02943-4981
お問い合わせは、茨城インフラツーリズム で検索!

図-2 月刊ダム日本10月号への掲載
(関連グッズやPRキャラクター「ダムらき」、
「体験アクティビティ」・「食」などを紹介)

元笠間高校の3年生が地元醸造所でワインを造り、ダム内に貯蔵するものである。ダムへのワイン貯蔵は県内初の試みであり、これまでのダム貯蔵酒との差別化を図るため、ワインの瓶には生徒が製作したオリジナルラベルを貼り付け、成人した2年後の自分に向けたメッセージも同封した。今後はこのような取り組みを一般にも広めることでダムの観光活用を図る。



写真-7 高校生によるダム監査廊へのワイン貯蔵



写真8 十王ダムでのスラックライン実証実験



写真9 県内旅行者へのダム活用事例紹介

5. アクティビティ体験による施設の活用について

これまで竜神ダムにかかる竜神大吊橋からのバンジージャンプや、小山ダムでのグランピング、カヌー体験が実施されているところである。これに加え、広大なダム湖面やダム本体の壮大なコンクリートの景観を生かし、アクティビティ体験ができる場所として活用できるよう、十王ダムの湖上でスポーツ綱渡りであるスラックラインの実証実験が行われたところである。

これは県内初の試みであり、2022年6月にはNPO法人主催のスラックラインイベントを開催予定であり、ダムの活用に関して引き続き地元市町村や関係団体の取組みに積極的に協力していく。

6. 旅行者及び市町村へのPR

旅行会社や市役所等の19団体27名を対象に、これまでのモデルツアー及びコンテンツ整備をPRし、今後旅行会社が主体となってツアーを企画できるよう、ダム施設見学とダム貯蔵酒の試飲によるツアー及びセミナーを開催した。

このツアーにはダムマニア・ダムライター宮島咲氏を招待し、バスの移動中や、ツアーの最後に他県の取組事例を紹介していただくことで、ダムが観光資源として魅力ある施設であることを伝えた。

ツアー最後の質疑応答の際には旅行会社より、様々な意見をいただいたが、課題及び今後の対応方針として以下の内容が挙げられる。

今回の現地視察は県の職員がアテンドしたが、人事異動等で説明者が変わってしまうと、参加者の理解等に差が生じてしまうのではないかと。また、今後は旅行会社がダム砂防ツアーを企画するが、施設の説明など県の職員に対応してもらいたいと、どの程度協力してもらえるのか。毎週土日や平日など対応できるのかといった質問があった。

このことについては施設説明はマニュアルを整備し、県職員のツアーの参加頻度の程度によっては今後、説明者としてOBや外部スタッフを配置するなどして、旅行会社の企画に協力をする必要性も、想定されているところであり、レベルの高い“説明”というサービスを提供できる体制を維持することは今後の課題でもある。

また、ダム貯蔵酒について、その有用性を地元酒蔵や地元市へPRしている段階のため、ダム貯蔵酒の販売計画は現時点で未定である。そのためダム貯蔵酒として販売に賛同していただけるよう、引き続き地元酒造会社へ協力を依頼していく必要もある。

7. まとめと今後の展望

このように、さまざまな取組に着手してきたところであるが、今後地域の特性を活かしたインフラツーリズムを進めていくにあたっては、次のようなポイントに注意していく必要があると考えている。

まず、砂防えん堤やダムは地域を守る防災施設であることから、愛着をもってもらえるよう、ツアーは地元住民をメインターゲットとし、砂防ダムカレーの開発でも触れた通り、徹底的に地元とのつながりを意識したものとする。

また、インフラ見学はわかりやすい説明が重要であり、専門用語は用いず、わかりやすいたとえを多用するなどの工夫が必要である。

今回のモニターツアーや旅行会社との意見交換を参考に今後は、アクティビティ体験と防災インフラ見学を組み合わせたモデルコースを設定することで、インフラツアーを旅行会社が企画しやすいよう、関係機関と連携しながら、茨城版インフラツーリズムを確立していきたい。

謝辞：本事業の推進ならびに論文作成にあたり、多大なるご指導、ご協力をいただいた関係者の皆様へ、ここに感謝の意を表します。